〔議題〕大津市歴史博物館の基本的運営方針の見直しについて

■「大津市歴史博物館基本的運営方針」策定の経過

平成 23 年 12 月 20 日付けで、文部科学省より「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され、各館が博物館の設置目的を踏まえた基本的運営方針を策定することが示されました。

大津市歴史博物館では、大津市歴史博物館協議会による２年間に渡る討議を経て出された答申をもとに、パブリックコメントや大津市教育委員会定例会における議決を経て、策定しました。

この基本的運営方針は、「大津市教育振興基本計画」の策定年度である令和２年度から５年ごとを目途に、必要に応じて見直すこととしており、令和６年度が見直しの年度となります。

■大津市歴史博物館の基本的運営方針（平成 29 年 3 月 23 日策定）

1、大津市歴史博物館が目指すもの

・豊かな歴史と文化をともに学び、ともに未来へ引き継ぐ

歴史博物館は、大津市の豊かな歴史と文化の素晴らしさを、そこに暮らす人々とともに学ぶことによって、郷土への愛着と誇りを育むとともに、多様でかつ地域性豊かな郷土の魅力を発信し、その担い手を育て、さらに未来へと引き継いでいきます。そして、人と人、人とモノとの出会いによって生みだされる学びの楽しさを、子どもたちをはじめとする幅広い世代の人々とともに分かち合える場となるような博物館を目指します。それとともに、誰もが暮らしてよかった、訪れてよかったと思えるような大津市のまちづくりにも寄与することを、歴史博物館の使命とします。

２、大津市の歴史と文化の魅力とは

（1）琵琶湖と緑の山々の豊かな自然の恵みによって育まれた歴史と文化

大津市は、魅力にあふれた都市です。日本一広い琵琶湖が、目の前に広がっています。背後は、緑の山々に囲まれています。その豊かな自然の恵みにより、先人たちは、大津市ならではの歴史と文化を育んできました。大津京、渡来文化を示す遺跡、仏教文化の聖地、水陸交通の要所、大津絵と近江八景、明治以降の近代化など。その魅力は多様で、またこれからも、さらなる調査によって、新たな魅力が発見されていくことでしょう。

（2）個性あふれる地域によって生み出された多様な歴史と文化

大津市は、明治 31 年（1898）の市制施行以来、度重なる合併により、市域が南北に細長いという地理的な特徴を持っています。山村部、湖辺や農村、また門前町・宿場町・港町・城下町といった都市部など、それらの多様な特徴を持つ地域に暮らす人々の営みによって、大津市には、個性豊かな歴史と文化が育まれてきました。

（3）数多くの国宝・重要文化財が残される一方、未指定の埋もれた文化財が人知れず眠る、未知の可能性を秘めた歴史と文化

世界遺産を擁する大津市には、国宝・重要文化財といった国指定文化財が、京都市・奈良市に次いで３番目と、数多く残されています。また、未指定で、地域の人々によって守られてきた文化財も豊富です。それでもまだ、人知れず埋もれている文化財が、多く眠っています。大津市の歴史と文化は、未知の可能性を秘めた魅力にあふれています。

（4）日本の各地域へ、さらに世界へと広がる歴史と文化

歴史をさかのぼると、中国大陸や朝鮮半島からの渡来文化、インドで発祥し、シルクロードを通じて我が国に伝えられた仏教、延暦寺・園城寺・西教寺・石山寺や日吉大社など日本の神仏信仰の中心的な位置にある多くの社寺、さらに、東西交通の要所といえる琵琶湖水運や東海道、北国海道、峠越えの道などの陸上交通。大津市の歴史と文化は、全国、さらに世界へと、無限の広がりを持っています。

３、基本的運営方針・活動目標

基本的運営方針　１

地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

大津市の歴史と文化の魅力でも触れたように、国指定文化財の豊かさとともに、市内の各地域には、地域性を持つ未指定の文化財が人知れず眠っています。また、日本の各地に、歴史的なつながりを示す文化財も数多く残されています。それらの文化財を守ってこられた地域の人々とともに調査し、その保存、活用について考えます。

◇活動目標(１)　資料の調査収集・研究活動の推進

市内、市外を問わず、本市の歴史と文化の特徴に関わる資料を積極的に調査収集し研究する。調査に際しては、資料所蔵者（個人・団体を含む）への取材により、資料の伝来状況を記録し、資料の持つ歴史的意義について明らかにする。

◇活動目標(２)　調査によって得られた情報のデータ化と収蔵資料の充実

調査収集した資料の整理と目録化を行うとともに、当館で導入している「歴史博物館収蔵品データベース」に蓄積し、今後の活用可能な基礎データとする。

◇活動目標(３)　地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進

資料調査の成果を所蔵者に還元し、資料保存に関する情報の共有化を進める。また資料をもとにした地域学習の要望に対して博物館も積極的に参加し、その活用方法などについて、ともに考える。

基本的運営方針　２

あらゆる世代、あらゆる地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

調査によって収集した、大津市の歴史と文化の魅力を、未来を担う子どもや若者をはじめとするあらゆる世代、市内外を含めたあらゆる地域の人々に伝え、そして歴史と文化の新たな担い手を育てるために、その共有化に向けた情報を発信していきます。また発信にあたっては、幅広いテーマによる企画展示の開催、歴史博物館や地域での体験も含めた講座の開催、蓄積したデータのインターネット等を通じた積極的な公開などを、親しみやすさに焦点を当てながら実施していきます。

◇活動目標(１)　常設展示の充実

資料の調査、研究によって得られた新たな情報を常設展示によって紹介し、常に新鮮な情報を発信する。また、利用者のニーズを把握し、展示内容に反映させるとともに、将来の改修に向けた準備を行う。

◇活動目標(２)　企画展示の充実

企画展示のテーマとして、国指定などを始めとする一級の文化財の鑑賞機会を提供するとともに、個性あふれる地域の魅力に焦点を当てた企画展、タイムリーなテーマによる企画展を開催し、大津市の歴史と文化の素晴らしさを広く発信する。

◇活動目標(３)　子ども・若者に対する学習支援の推進

子ども・若者を、大津市の歴史と文化の魅力を未来へ引き継ぐ担い手として育てていくため、各年代層に応じた、学習に関する支援を積極的に進めていく。

◇活動目標(４)　幅広い世代に向けた積極的な情報発信

博物館が持っている資料や情報を、れきはく講座やホームページ等を通じて積極的に発信することにより、市民等の生涯学習に対するニーズに応える。

基本的運営方針　３

大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

「大津市総合計画」「教育振興基本計画」に基づき、大津市の歴史と文化の魅力をさらに広く発信するために、学校教育、社会教育の諸活動、都市計画、観光に関わる諸事業、市民ボランティアやまちづくりを目指す大学や各種団体、企業、歴史的に関係の深い文化施設および自治体などと連携し、博物館事業を進めます。そして、大津市の魅力を、人々が共有し、暮らしに活かせるような歴史と文化のあらゆる情報に応えるセンターとしての役割を担います。

◇活動目標(１)　大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携

大津市の各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携を図りながら、本市の歴史情報発信の核としての役割を果たす。

◇活動目標(２)　歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う

歴史博物館で調査収集した資料を幅広く提供するとともに、博物館展示室を広くギャラリーとして活用に供するなど、歴史と文化の普及に関するセンターとしての役割を担う。

３、基本的運営方針・活動目標

基本的運営方針　Ⅰ
地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

◇活動目標(Ⅰ)　資料の調査収集・研究活動の推進

市内、市外を問わず、本市の歴史と文化の特徴に関わる資料を積極的に調査収集し研究する。調査に際しては、資料所蔵者（個人・団体を含む）への取材により、資料の伝来状況を記録し、資料の持つ歴史的意義について明らかにする。

（具体的事業案）

① **継続的な資料調査の実施**　調査対象資料は、絵画・彫刻・工芸・歴史・古文書・民俗・考古の各分野とする。また、分野を超えた複合的な調査・収集を、適宜実施することにより、資料に対する新たな価値を見い出す。

② **他機関等専門家との合同による資料調査**　文化庁、関係研究機関（大学・博物館など）との合同調査を積極的に実施し、資料の歴史的な意義を明らかにする。

③ **資料調査成果の発表と共有化**　資料調査の成果を『大津市歴史博物館研究紀要』等の学術雑誌や研究会において発表することにより、大津市の豊かな歴史と文化の共有化を図る。

【５年間の自己評価】

□ 資料調査については、所蔵者からの申し出や展覧会にともなう調査などにより、継続的に行なってきた。さらに令和４年度からは「未指定文化財調査事業」として市内の寺社を中心に計画的な調査をスタートさせた。また、現存する「大津町絵図」の調査や、菓子や酒造などの「大津の食文化調査」など、テーマを定めた調査を始めることができた。

□ 京都府立大学や佛教大学との間で古文書の整理作業を中心とした共同調査を令和５年度から始めたほか、テーマに基づく調査として、立命館大学と食文化調査を行っている。また、市内の文化財調査では、当館学芸員の専門分野ではない資料について、外部から研究者を招聘できる体制を整えた。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 未指定文化財調査や新たなテーマ設定による調査事業を始めたことにより、展示のための調査ではなく調査の成果を記録し発信する、博物館本来の業務サイクルへの転換が進みつつある。この体制が続くように外部の研究機関等との連携を図りながら、着実に文化財調査を進めていきたい。

【新】（具体的事業案）

① **継続的な資料調査の実施**　調査対象資料は、絵画・彫刻・工芸・歴史・古文書・民俗・考古の各分野とする。また、未指定文化財調査やテーマを設定した複合的な調査・収集を、適宜実施し、未知の資料の発見と研究による新たな価値の創出につとめる。

② **他機関等専門家との合同による資料調査**　現行のとおり

③ **資料調査成果の発表と共有**　資料調査の成果を研究紀要や調査報告書を刊行するとともに、展示や講演会等で発表し、本市の豊かな歴史と文化の共有を図る。

◇<u>活動目標(２)</u>　**調査によって得られた情報のデータ化と収蔵資料の充実**

調査収集した資料の整理と目録化を行うとともに、当館で導入している「歴史博物館収蔵品データベース」に蓄積し、今後の活用可能な基礎データとする。

（具体的事業案）

① **調査資料の詳細なデータ化**　調査資料の整理にあたっては、調査で得られたあらゆる情報（聞き取り調査も含め）を「収蔵品データベース」等に蓄積し、資料がもつ情報を含めて次代に引き継ぐ。

② **収蔵資料の充実**　購入・受贈・受託などの方法による博物館収蔵資料の充実につとめ、展示、レファレンス等への活用を図る。

③ **収蔵資料保存に向けた施設の充実**　定期的な資料の燻蒸により、保存環境を良好に保つとともに、空調機器など設備の維持管理、改修につとめる。また、資料の収蔵スペースの確保についても検討する。

【５年間の自己評価】

□ 収蔵品のうち、購入資料は５年間で 47 件が増加した。令和５年度からは、大津市文化観光振興基金の活用が可能となり、大津の歴史に関わる資料が着実に集まりつつある。

□ 受贈資料は 45 件であり、古文書や歴史資料が多く収蔵された。所有者からの相談などにより受け入れることが多く、収蔵スペースを常に意識しながら受け入れている状況である。

□ 寄託資料は微増にとどまっているが、寺社の資料を中心に今後も増加する可能性がある。また、文化財の緊急避難場所としての機能も必要となっている。

□ 調査・保存体制では、令和５年度から博物館収蔵品の燻蒸以外に、未指定文化財調査によって把握された資料について緊急で燻蒸できる体制を整え、現地での保管を含めた手法を模索している。また、調査資料の整理は、大学との共同調査（再掲）を行なっている。

□ 令和５年度から、大津市文化観光振興基金を活用した館蔵品の修理を始め、瀬田国民学校絵日記（市指定）の修理を完了した。

□ 収蔵スペースは余裕がなくなりつつある状況だが、令和５年度から行なっている収蔵庫の地震対策作業にあわせて、収蔵品の整頓作業を行ないながらスペース確保につとめている。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 収蔵スペースの確保につとめながら、必要な資料を収蔵品として着実に保管していく。また、修理についても展示活用や将来への保存のため、今後も継続的に取り組む。

□ 収蔵スペースについては、将来的には新たな収蔵スペースを確保する必要がある。まずは、新・琵琶湖文化館などとも情報共有するほか、所蔵者との関係を深めながら、地域全体で文化財を保管する体制を作る必要がある。

【新】（具体的事業案）

① **調査資料の詳細なデータ化**　現行のとおり

② **収蔵資料の充実**　現行のとおり

③ **収蔵資料保存に向けた施設の充実**　現行のとおり

◇<u>活動目標(３)</u>　**地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進**

資料調査の成果を所蔵者に還元し、資料保存に関する情報の共有化を進める。また資料をもとにした地域学習の要望に対して博物館も積極的に参加し、その活用方法などについて、ともに考える。

（具体的事業案）

① **資料保存についての情報の共有化**　博物館と地域で資料の保存環境に関する情報を共有化し、資料の劣化や散逸を防ぐ。

② **資料を活用した共同学習の推進**　資料を素材とした地域学習の要望に対し、博物館も積極的に参加し、その活用方法について、ともに考え、資料に盛り込まれた地域の特性についての共同学習を進める。

【５年間の自己評価】

□　新型コロナが猛威を振るった時期に、市内各地で家の掃除・整理が進んだせいか、倉庫や蔵に残る歴史資料に関する相談が増加した。また、展覧会をきっかけとした、地域学習の要望や保存に関する相談も多くあった。以下にその一部を紹介する。

- 膳所在住の郷土史家・中神天弓氏所蔵の膨大な資料について、膳所歴史資料室との共同で整理を進め、同室に収蔵されることになった。史料調査やその成果は、翌年の公民館講座などで公表された（当館学芸員も出講）。
- 「大友皇子と壬申の乱」展（令和４年度）や「湖都大津の災害史」展（令和４年度）などの準備の際に見出された区有文書は、重要であることが認識されつつも、地域で保存することが困難なものについて、博物館に寄託されることになった（錦織、田上里、芝原など）
- 企画展「湖都大津の災害史」（令和４年度）の出陳資料の多くは、大津市域各地の自治会や財産区が保管する区有文書である。調査・借用を契機に、各地域でどのようにして保存していくべきかの議論がなされ、虫干しや保存委員会が立ち上がるケースがあった（守山、南小松など。従来から虫干しを実施している地域も多い）。
- 同上展覧会後、地域防災に関する講習会のなかで、自分たちの住む地域の成り立ちや防災史との関わりを説明してほしいという要望が多く寄せられ、近代以降の防災史をたどる研修会を実施している（坂本、守山、南比良地区など）。
- 「近江堅田　本福寺」展（令和５年度）開催以前から、調査団体（大学研究者など）との連携で、同寺史料を含む堅田地域の史料の総合調査が進められてきた。定期的に大津市北部地域センターなどで報告会が行われてきたが、令和４年度より主催と会場が本福寺に移り、お寺で堅田の歴史を学ぶ機会として定期的に開かれることになった。

【今後の活動目標についての考え方】

□　所有者との間で資料の内容を共有することは、資料の重要性や地域の歴史の理解につながる重要な行程である。多くの資料が後世に引き継がれるようしたいという目的のもと、資料の調査や展示借用の機会など、様々な場面で丁寧な説明につとめることで、市民の主体的な活動につなげたい。

【新】（具体的事業案）

① **資料保存についての情報の共有**　博物館と地域で資料の保存環境に関する情報を共有し、資料の劣化や散逸を防ぐ。

② **資料を活用した共同学習の推進**　現行のとおり

基本的運営方針　２
あらゆる世代、あらゆる地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

◇活動目標(Ⅰ)　常設展示の充実

資料の調査、研究によって得られた新たな情報を常設展示によって紹介し、常に新鮮な情報を発信する。また、利用者のニーズを把握し、展示内容に反映させるとともに、将来の改修に向けた準備を行う。

（具体的事業案）

① **ミニ企画展・特別公開などの充実**　大津絵・近江八景など、大津市ならではの歴史と文化の魅力を示す資料を、ミニ企画展において定期的に公開していくとともに、資料調査によって得られた新発見資料のタイムリーな公開につとめる。

② **展示解説シートの作成と活用**　常設展示の内容や大津の歴史に関する理解をより深めるための解説シートを作成するとともに、事前学習にも利用できるように、ホームページ等で公開し、利用の促進を図る。また海外からの観光客誘致に向けて、多言語版解説シートを作成する。

③ **展示解説の充実**　現在運用中の音声ガイドの内容充実に加え、観覧者の展示内容に対する理解を深める様々な解説方法を模索する。

④ **常設展示の見直し**　観覧者アンケート等により、満足度・リピーター率等を把握するほか、意見の集約により、展示内容の充実を図るとともに、今後の展示改装に向けた基礎資料として活用する。

【５年間の自己評価】

□ 大河ドラマにあわせた特集展示のほか、年７～８回のミニ企画展を行なった。ミニ企画展は常設展示の活性化と収蔵品の積極的な展観を意図して始まった企画だったが、「智証大師円珍関係文書典籍」の〈世界の記憶〉登録や、小学校創立 150 年など、話題性の高い内容や、「近江神宮造営史」のような新収蔵資料の特集など、多様な展示が開催できた。

□ 平成 30 年に常設展示室内に解説シートを設置したが、多言語版のシートは未作成である。

□ 観覧者アンケートは、有効なアンケートの収集方法が確立できず、現在では統計的調査を停止し、自由記述により意見のみ集約する方法に変更している。

□ 令和元年６月に大津絵コーナーをリニューアルし、大津絵の展示点数を増加とさせ、菓子木型や人形などの大津絵関連資料の充実を図った。また、令和６年３月には、〈世界遺産〉と〈世界の記憶〉コーナーを設けるなど、展示改修を行なった。

□ 映像展示おいて、聴覚障がい者への字幕対応が十分ではなかった。

【今後の活動目標についての考え方】

□ ミニ企画展や常設展示室の小規模改修を継続するとともに、常設展示への興味と理解を深める工夫を重ねる。また、インバウンド対策（多言語化等）にも取り組む必要がある。

【新】（具体的事業案）

① **ミニ企画展・特別公開などの充実**　現行のとおり

② **展示内容の理解を深める取り組み**　解説シートや音声ガイド、展示室内での解説など、様々な手法で観覧者の展示内容の理解を深めるとともに、ホームページ等を利用して、広く展示内容を発信する。　→②と③を統合

③ **常設展示の見直し**　調査成果や新指定等の話題にあわせて常設展示室の一部を適宜変更し、常に最新の大津の歴史が紹介できる内容とする。また、障害のある方への合理的な配慮について常に意識しながら展示を工夫する。

◇**活動目標(２)　企画展示の充実**

企画展示のテーマとして、国指定などを始めとする一級の文化財の鑑賞機会を提供するとともに、個性あふれる地域の魅力に焦点を当てた企画展、タイムリーなテーマによる企画展を開催し、大津市の歴史と文化の素晴らしさを広く発信する。

（具体的事業案）

① **指定文化財の公開**　日頃、目にすることの少ない指定文化財（国・県・市指定)の鑑賞機会を来館者に提供する。

② **資料調査の成果を盛り込んだ企画展の開催**　大津市の歴史と文化の特徴として挙げた、個性あふれる地域の魅力等を重視したテーマによる企画展を開催する。

③ **企画展示開催方法の検討**　企画展開催にあたっては、展示内容への理解を深めるため、れきはく講座と連動させるなど、多様な試みを模索する。また他の博物館や文化施設等と連携し、幅広い視点で地域の魅力を明らかにする。

④ **親しみやすい企画展**　利用者のニーズに応じたテーマでの企画を検討する。また、解説などについても分かりやすさ、親しみやすさを念頭においた工夫と見直しを常に行う。

【５年間の自己評価】

□ 令和元年度から５年度までの間に、国指定文化財 55 件（うち国宝４件）のほか、多くの県、市指定文化財を展示することができた。

□ 大河ドラマに合わせた展示をはじめ、バラエティ豊かな展覧会を行なった。市内社寺の展示など、所蔵者の全面協力なしに実現できない企画は、地域博物館ならではだと考えている。また、「大津のどうぶつ博物館」（令和３年度）の様な、子ども向け展示も開催できた。

□ ギャラリートーク等を行ない、展示内容の理解につとめた。また、「湖都大津の災害史」展（R4）では総合地球環境学研究所と共催したほか、「蘆花浅水荘と山元春挙画塾」（R3）では、蘆花浅水荘や膳所焼美術館などと連携し、回遊性を意識した展示を行なった。

□ 展覧会ごとにワークシートを作成し、展示内容に関する興味を喚起するとともに、一部の展示については、缶バッチなどのミュージアムグッズを作成した。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 企画展の開催は、当館にとって博物館への観覧者層をひろげる最も重要な事業だと考えている。市民の関心にあわせた展覧会は勿論、未指定文化財調査等で得られた成果を活用し、地域の知られていない歴史や文化ついて紹介し、共有することが必要である。

□ ギャラリートークやワークシートなど、展示内容の理解を深める取り組みは、今後も工夫を重ねながら継続していきたい。

□ 企画展示観覧者の満足度は高いが、観覧者数は必ずしも多いといえる状況ではない。ホームページや SNS 等を通じ、展示内容の魅力の発信を続けるとともに、幅広い人々に展覧会を観覧していただけるよう、効果的な宣伝や発信につとめていく必要がある。

【新】（具体的事業案）

① **指定文化財の公開**　現行のとおり

② **地域の魅力を発信する企画展の開催**　未指定文化財調査の成果の発信や、他の博物館や施設との連携により、地域の個性あふれる魅力を紹介する展覧会を継続して開催する。

③ **観覧者の満足度向上**　会場での展示解説や関連講座の開催により、観覧者の展示内容の理解を高めるとともに、楽しみながら観覧できるワークシートを積極的に活用する。

④ **【新規】展覧会情報の発信**　展覧会の内容を図録等によって記録するとともに、会期を通じてホームページや SNS 等を通じて発信し、内容の理解や来館につなげていく。

◇<u>活動目標(３)</u>　**子ども・若者に対する学習支援の推進**

子ども・若者を、大津市の歴史と文化の魅力を未来へ引き継ぐ担い手として育てていくため、各年代層に応じた、学習に関する支援を積極的に進めていく。

（具体的事業案）

① **小中学生来館に対する学習支援**　学校団体観覧をはじめ、来館する児童・生徒に向けた、常設展示解説シート、ワークシートを新たに作成し、歴史と文化の普及を図るとともに、受入れの促進を図る。

② **小中学校への出張授業**　主に、小学校３年生の学習分野「昔の道具、昔の暮らしを学ぶ」、６年生の社会科歴史分野に対応した出張授業を実施するとともに、学校現場での授業支援に向けた副教材を作成する。

③ **親子で学ぶ歴史講座の開催**　大津市全体や地域の歴史、また博物館資料や施設及び活動に関する講座を、体験型に力点を置きながら実施する。

④ **子ども・若者に対する多様な学習支援**　子ども・若者に対し、館内や地域での資料調査など、学芸員の仕事を実体験してもらうとともに、自発的な郷土学習に対する支援を行うことで、文化財の保存や伝承に対する意識の普及を図る。

【５年間の自己評価】

□ 学校団体観覧は、中学校を中心に観覧校数が増えつつある。ワークシートは作成できなかったが、副教材として市文化財保護課が『大津市の歴史文化－未来に伝える 15 の物語』を中学校に配布、令和６年度からは市内のブロック毎に副読本を刊行予定である。

□ 小中学校への出張は、学習指導要領の変更にともない、小学校３年生向けの「市の移り変わり」の依頼が新たに加わった。副教材については、出張時に使用しているシナリオや発表資料、ワークシートを相談に応じて提供し、活用していただいている。

□ 成安造形大との共同のワークショップは、新型コロナにより対面開催ができなかった令和２年にはキットを郵送するなど、途切れることなく継続できた。館主催では令和３年度以降、大津絵の制作体験や兜のペーパークラフトづくりなど、継続的に取り組んでいる。

□ 学芸員の仕事体験は、中学校の職場体験では、博物館を希望する生徒を原則とするようお願いし、生徒の希望に沿いながら資料整理や撮影などを経験できるようにしている。また、博物館学芸員資格取得のための館務実習でも、所蔵者の理解を得て資料調査を経験できるようにした。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 歴史を子どもたちに伝えることは、年齢が下がるとともに難しくなることから、体験や身近な内容から歴史を意識できる取り組みを今後も工夫しながら行なっていく必要がある。

□ 職場体験では、各学校の相談や職場体験に来る生徒たちの希望にあわせて、細やかな対応につとめていきたい。

【新】（具体的事業案）

① **小中学生に対する学習支援**　博物館での観覧や出張授業、資料の提供など、大津の歴史や文化に関する情報を、学校現場や学習目的に応じて的確に提供する。

→①と②を統合

② **親子で学ぶ歴史講座の開催**　現行のとおり

③ **子ども・若者に対する多様な学習支援**　現行のとおり

◇**活動目標(４)　幅広い世代に向けた積極的な情報発信**

博物館が持っている資料や情報を、れきはく講座やホームページ等を通じて積極的に発信することにより、市民等の生涯学習に対するニーズに応える。

（具体的事業案）

① **れきはく講座の開催**　現在、毎週土曜日を基本として開催している、博物館講堂での講座と年４回程度の現地見学会を、今後も継続実施するとともに、参加者のニーズを把握し、講座内容の充実を図る。

② **公民館講座等への講師派遣**　地域の公民館、市民の歴史サークル、各種団体などで開催される講座に講師を派遣し、大津市の歴史と文化の普及を図る。

③ **れきはくホームページの充実**　博物館の案内や展示の紹介以外に、大津の歴史と文化を示す資料のデータを高精細画像によって提供し、歴史博物館を訪れることなく、自宅でも、より詳細な資料の検索を可能とする。

④ **報道機関への情報提供**　企画展、ミニ企画展を始め、調査による新発見資料等を随時記者発表し、博物館活動の内容を幅広く広報する。

【５年間の自己評価】

□ れきはく講座は、新型コロナの影響により一部開催中止があった。その後、聴講者数の制限などを行いながら現在に至っている。制限時に行った平日開催やスライドトーク（講堂での作品解説）は参加者の意見を考慮し、試行錯誤しながら現在も継続して行なっている。

□ 講師派遣は、新型コロナにより依頼が減ったが、以前の依頼件数に戻りつつある。

□ 新型コロナの自粛期間に、ホームページ上でペーパークラフトやすごろく、壁紙配布などを行い、幅広い年代や遠方の方々が、本市の歴史に興味を持つきっかけとなった。

□ 報道機関については、展覧会ごとの広報を中心に発信したことから、多く取り上げていただいている。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 新型コロナを契機に始めた様々な取り組みが、結果的に博物館事業の幅を広げることになった。博物館の調査研究成果の発信をおろそかにしないようにしながらも、幅広い人々に興味関心を持っていただけるように、内容や手法を工夫していきたい。

【新】（具体的事業案）

① **れきはく講座の開催**　現行の通り

② **公民館講座等への講師派遣**　現行の通り

③ **れきはくホームページの充実**　大津の歴史と文化を示す情報を積極的に発信し、歴史博物館を訪れることなく、自宅でも手に入れることができるようにするとともに、幅広い世代に大津の歴史や文化が伝わるよう、解説だけにとらわれない情報提供を行う。

④ **報道機関への情報提供**　現行の通り

基本的運営方針　３
大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

◇活動目標(１)　大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携

大津市の各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携を図りながら、本市の歴史情報発信の核としての役割を果たす。

（具体的事業案）

① **大津市教育委員会、市長部局各課との連携**　文化財保護課、生涯学習課、市立図書館、都市計画や観光等の諸計画と連携を図り、本市行政における大津の歴史と文化推進事業の核としての役割を果たす。

② **市内大学、文化施設等との連携**　平成 14 年度から開催している成安造形大学との連携による「夏休み子どもワークショップ」、同 24 年から実施している県立びわ湖ホールでのラ・フォル・ジュルネ事業との連携等により、大津の歴史と文化の魅力を、市民等と共有する取り組みを行う。

【５年間の自己評価】

□ 歴史文化の保存と活用をふまえたまちづくりを一層推進するため、令和４年４月から歴史博物館と文化財保護課が教育委員会から市長部局（市民部）に移管した。これにより、市役所内での連携がこれまで以上に図れる体制が整った。大河ドラマを通じた観光部署との連携や、歴まち計画（歴史的風致維持向上計画）による都市計画課との連携などでは、歴史に関する情報提供や博物館事業としての取り組みなど、各課との連携は深まりつつある。

□ 大学や文化施設との連携は、市民向け講座を中心に講師派遣という方法で関わることが多かった。継続的な取り組みでは、博物館学芸員資格取得のための館務実習のため、大学から学生を毎年 30 名程度受け入れている。

【今後の活動目標についての考え方】

□ まちづくりや観光との連携は講師派遣にとどまらず、企画立案の段階から相談を受けることが多く、今後もこうした連携を深めていきたい。

□ 大学や文化施設との関わりは、主体的、継続的な取り組みにつなげることが難しいが、機会を逃すことなく取り組んでいきたい。

【新】（具体的事業案）

① **大津市教育委員会、市長部局各課との連携**　歴史文化遺産を本市のまちづくりを始め教育や観光を支える重要な要素として生かすため、各課との連携を深めていく。

② **市内大学、文化施設等との連携**　平成 14 年度から開催している成安造形大学との連携による「夏休み子どもワークショップ」をはじめ、博物館施設以外と連携することで、大津の歴史と文化の魅力を広く市民と共有する。

◇<u>活動目標(２)</u>　**歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う**

歴史博物館で調査収集した資料を幅広く提供するとともに、博物館展示室を広くギャラリーとして活用に供するなど、歴史と文化の普及に関するセンターとしての役割を担う。

（具体的事業案）

① **他の博物館等展覧会に係る収蔵資料の貸し出し**　他の博物館、各種団体等が開催する展覧会に対し、博物館所蔵資料等の貸し出しを行うことで、本市の歴史と文化普及の核としての役割を果たす。

② **博物館資料の幅広い活用**　博物館所蔵資料等を、地域の文化活動や福祉活動、書籍の出版や個人の調査、研究などに幅広く提供し、その活用を推進する。

③ **レファレンス対応**　市民や報道機関などから、メール、電話、手紙、来館などによる問い合わせへの対応。

④ **企画展示室の活用**　企画展示室を大津市美術展や教育委員会主催事業の会場として提供するほか、広く市民ギャラリーとしても貸し出し、文化的活動への活用を図る。

【５年間の自己評価】

□ 他館への資料の貸し出しは多くはないものの、一定の依頼があり、条件が整うものについて貸し出している。博物館以外については実物資料は難しいものの、パネル等の貸し出しで対応している。特に古写真は、地域の移り変わりを可視化できることからデータ提供の依頼が多く、地域行事での展示や会報への掲載、個人利用では同窓会での掲示など様々な場面で利用され、必要に応じて展示構成などの相談にも応じている。

□ 博物館資料の利用やレファレンス対応は、相手先の要望があることが前提となるが、データベースの公開資料からの問い合わせが多く、一定の周知が図られている。

□ 企画展示室の利用は、新型コロナの流行後、利用回数は以前の状態に戻りつつあるが、観覧者数は以前に比べて少ない。

□ １階エントランスや２階展望ロビーについて、毎日マラソンの振り返り展（市スポーツ課）やひな人形展（びわ湖大津観光協会）など、必要に応じて市主催事業などによる催し物の会場として活用している。これらは博物館主催のロビー展とともに、気軽に博物館に訪れるきかっけとなっている。

【今後の活動目標についての考え方】

□ 資料の貸し出しやレファレンスは、これまで通り丁寧な対応を心がけるとともに、企画展示室の活用については、博物館全体として考え、様々な催し物の利用されるよう、柔軟な対応につとめたい。

【新】（具体的事業案）

① **収蔵資料の貸し出し**　現行のとおり

② **博物館資料の活用**　現行のとおり

③ **レファレンス対応**　現行のとおり

④ **企画展示室等の活用**　企画展示室を大津市美術展や教育委員会主催事業の会場として提供するほか、広く市民ギャラリーとしても貸し出す。ロビー等については、市内の文化や観光等の発信拠点として、積極的に利用する。